

令和7年度 更埴教育会総集会 開会あいさつ

更埴教育会長 宮本 隆

若葉が、より深い青葉になる季節となりました。本日はオンラインにより大勢の会員の皆様にもご参会いただき、令和7年度更埴教育会総集会が開催できますこと、大変ありがたく、感謝申し上げます。また、公私ともにご多用の中、信濃教育会 和田敦様をはじめ、千曲市・坂城町教育長様、各教育関係団体様、そして諸先輩の皆様の臨席を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、私たちの目の前にいる子どもたちが将来生きていく社会は、「超スマート社会」と呼ばれ、おそらく誰も経験したことのない課題が待ち受けるものになると言われています。何が正解なのか判断に迷うことが当たり前になるかもしれません。正解がどれだかわからない問題に取り組み続けることを求められる子どもたちに、「未来社会の創り手」となるために必要な資質・能力を育むことはとても難しいことであると考えます。では、この課題を解決するために学校は何をしなければならないのでしょうか。当たり前のことですが、学校は、「子どもが育つ場」となる必要があります。しかしながら、それはたいへんな仕事であり、また、社会にとっても重要な仕事でもあります。

教職に就いている私たちは、どんなに研鑽を積んでも十分であることはありません。常に不十分な自分を自覚することで、子どもたちの成長の傍らに身を置くことができます。至らない自分だからこそ学び続けることで、子どもたちの可能性や個性を伸ばすことができると思います。逆に、教師が固定された見方や考え方の上に安座しては子どもたちを創造的に育むことは難しいでしょう。

「子どもたちが主体的に学ぶこと」を語る私たち教師自身が、見識や専門性、指導力を高めるために主体的に学び、研修を続けることが今まで以上に求められているのです。「会員の自発的活動を基調として、会員相互に信頼し、協力して教職員として必要な専門性を高める」この教育会の意義はより重要性を増してくると思います。

教育会は「自分への投資」であり、「磨き合う同志との絆の創造」です。先輩教師から若手へ伝承する仕組みや、若手と先輩が双方向で共に考え学び合う場としても、柔軟な発想による新たな取組も行っていまいりましょう。

結びに、本日の総集会が皆様にとって有意義な研修の場となることを願い、簡単ではございますが開会の挨拶とさせていただきます。